

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-342118

(P2000-342118A)

(43) 公開日 平成12年12月12日 (2000. 12. 12)

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

テマコード(参考)

A 01 K 85/16
85/00

A 01 K 85/00

F 2 B 1 0 7
Z

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平11-153687

(22) 出願日

平成11年6月1日 (1999. 6. 1)

(71) 出願人 000006943

リョービ株式会社

広島県府中市目崎町762番地

(72) 発明者 重藤 秀俊

広島県府中市目崎町762番地 リョービ株式会社内

(74) 代理人 100083839

弁理士 石川 泰男

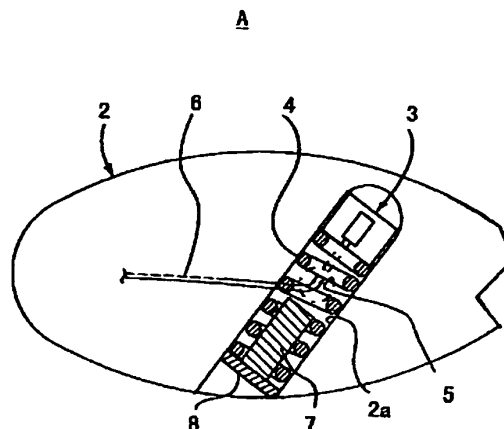
Fターム(参考) 2B107 BA42 BA46 BA70

(54) 【発明の名称】 ルアー

(57) 【要約】

【課題】 釣り糸の張力によってルアー本体の重心を左右方向に移動させることによって、ルアーの遊泳を不規則にし、傷ついて弱った魚の動きをもたらすことによって、大きな釣果の向上を図ることができるルアーを提供する。

【解決手段】 ルアー本体1、21の中心軸線CLに対して所定の角度θで交差してルアー本体1、21の左右方向に伸びるように鍾収容室2a、12a、22aを形成する。鍾収容室2a、12a、22a内に鍾3を移動可能に配置すると共に、鍾3を鍾収容室2a、12a、22aの一方の側に付勢する付勢手段4を設ける。ルアー本体1、21の実質的に中心軸線CL上の位置において、鍾収容室2a、12a、22aをルアー本体1、21の外部に連通するガイド孔5、5a、5bを形成する。ガイド孔5、5a、5bから鍾収容室2a、12a、22a内に挿入した釣り糸FL又は一端に釣り糸FLを連結した連結部材6を鍾3に連結する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ルアー本体の中心軸線に対して所定の角度で交差して前記ルアー本体の左右方向に伸びるように錘収容室を形成し、

前記錘収容室内に錘を移動可能に配置すると共に、前記錘を前記錘収容室の一方の側に付勢する付勢手段を設け、

前記ルアー本体の実質的に前記中心軸線上の位置において、前記錘収容室を前記ルアー本体の外部に連通するガイド孔を形成し、

前記ガイド孔から前記錘収容室内に挿入した釣り糸又は一端に釣り糸を連結した連結部材を前記錘に連結したことを特徴とするルアー。

【請求項2】 前記錘の前記付勢手段による付勢される方向への移動量を規制する停止位置調整手段を前記錘収容室の一端に設けたことを特徴とする請求項1に記載のルアー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ルアー、特に、クランクベイト、バイブレーションプラグ等に代表される所謂「ハードルアー」に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、ルアーにおいては、魚形等に擬製させて形成したルアー本体の中央部より前方下部に錘を設け、リーリング時等に恰も魚が尾を振って泳いでいるように見せて釣果を高めるように構成されている。

【0003】しかしながら、上述したように、単にルアー本体の前方下部に錘を設けたのみでは、ルアーの飛行中の姿勢が不安定になるばかりか、ルアーが回転して飛距離が伸びなかったり、目的のポイントに投げ入れることができないという問題があった。

【0004】このような問題を解決するために、実公平3-15021号公報には、ルアー本体の前後方向に長く錘収容室を形成し、この錘収容室内に中心線に沿って前後方向に移動自在に錘を収納することによって、キャスト時に錘をルアー本体の後部に移動させて、ルアーの飛行姿勢の安定化を図り、もって、ルアーの飛距離の伸長を図ると共にキャストコントロールの向上を図ることが開示されている（以下、「先行技術1」という）。

【0005】又、特開平10-136834号公報には、ルアー本体に設けられた潜水鰭と水平鰭とをリーリング時の釣り糸の引張力によってバネの付勢力に抗してルアー本体から引き出し、もって、浮き沈み運動を制御するルアーが提案されている（以下、「先行技術2」という）。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、先行技術1によれば、ルアーの錘は、キャスト後ににおい

て、錘収容室の前端に設けられた磁石によって錘収容室の前方側の位置に保持されるため、リーリング時における遊泳姿勢は通常のルアーと実質的に変わるものではない。

【0007】又、先行技術2に開示されたルアーも単に浮き沈みするだけのものであるため、大きな釣果の向上を図ることは困難である。

【0008】尚、ジギング用ルアーにおいて、ルアー本体を平面において左右非対称形状に形成したものが提案され、使用されているが、これも、リーリング時に釣り糸の張力によって円運動をしながらきりもみ状に上昇・沈降するのみであるため、大きな釣果の向上を図ることは困難である。

【0009】本発明の目的は、リーリング時の釣り糸の張力によってルアー本体の重心を左右方向に移動させることによって、ルアーの遊泳を不規則にし、傷ついた魚の動きをもたらすことによって、大きな釣果の向上を図ることができるルアーを提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するために、請求項1の本発明は、ルアー本体（1、21）の中心軸線（CL）に対して所定の角度（ θ ）で交差して前記ルアー本体（1、21）の左右方向に伸びるように錘収容室（2a、12a、22a）を形成し、前記錘収容室（2a、12a、22a）内に錘（3）を移動可能に配置すると共に、前記錘（3）を前記錘収容室（2a、12a、22a）の一方の側に付勢する付勢手段（4）を設け、前記ルアー本体（1、21）の実質的に前記中心軸線（CL）上の位置において、前記錘収容室（2a、12a、22a）を前記ルアー本体（1、21）の外部に連通するガイド孔（5、5a、5b）を形成し、前記ガイド孔（5、5a、5b）から前記錘収容室（2a、12a、22a）内に挿入した釣り糸（FL）又は一端に釣り糸（FL）を連結した連結部材（6）を前記錘（3）に連結したことを特徴とする。

【0011】請求項2の本発明は、請求項1のルアーにおいて、前記錘（3）の前記付勢手段（4）による付勢される方向への移動量を規制する停止位置調整手段（7）を前記錘収容室（2a、12a、22a）の一端に設けたことを特徴とする。

【0012】

【発明の実施の形態】本発明の第1実施形態に係るルアーを、図1乃至図5を参照して以下に説明する。このルアーAは、クランクベイトとして構成されたもので、リップ2を備えたルアー本体1と、一對のトレブルフックH1、H2とを備えている。

【0013】ルアー本体1は、木材、合成樹脂等から成形されたもので、その全体に亘って、小魚を模倣した模様や、様々な色彩パターンを施すことによって、小魚等の餌に擬製させている。

【0014】ルアー本体1の内部には、ルアーAの重心を調整するための錘を配置してもよい。勿論、この錘は、ルアーAの飛行姿勢を安定させて、飛行距離を長くするために、ルアー本体1内を移動可能にしてもよく、また、この錘によって、集魚効果を有する音、所謂、ラトルサウンドを発生させることもできる。

【0015】上述したルアー本体1の先端には、リップ2が設けられている。このリップ2は、透明な合成樹脂から成形されている。このリップ4の長さは、潜行限界深度に応じて予め決定される。

【0016】リップ2には、錘収容室2aが形成されている。ルアーAの平面図である図3から明らかなように、錘収容室2aは、その軸線Lがルアー本体1の中心軸線CLに対して所定の角度 θ で交差するように、リップ2の左右方向に伸びている。この所定の角度 θ は、約5度から約60度の範囲内であることが望ましい。錘収容室2aの一端は閉塞され、その他端はリップ2の側面に開口している。

【0017】錘収容室2aには、錘3が移動可能に配置されている。錘3は、鉛、タングステン、スチール、真鍮等の比重の大きい材料からなり、図5に示すように、錘本体3aと、その上面に設けられた突部3bとから構成されている。この突部3bには、後述する釣り糸FL又は連結部材6を連結するための孔3cが形成されている。錘収容室2aは矩形状の横断面形状を有しているため、ここに収容される錘3も、その形状に一致するように、立方体の形状を有しているが、錘3の形状を、錘収容室2aの横断面形状に一致するように変化させてもよく、例えば、錘収容室2aが円形の横断面形状を有している場合には、錘3を円柱状に形成してもよい。

【0018】上述したリップ2の上面において、ルアー本体1の実質的に中心軸線CL上の位置には、錘収容室2aをリップ2の上面側の外部に連通するガイド孔5が配置されている。このガイド孔5は、セラミックス、金属等のリングから構成されており、釣り糸FLや後述する連結部材6の摩擦を防止するように、リップ2の孔部2bに嵌合されている。

【0019】錘収容室2a内には、付勢手段としてのスプリング4が配置され、錘3を後方側に押圧している。即ち、錘収容室2aの開口端には、これを閉塞するための栓8が取り付けられるが、この栓8と錘3との間にスプリング4が配置されている。従って、錘3はスプリング4によって、図4において右上方向に常時付勢されている。防錆性に鑑み、スプリング4の材料として、ステンレス鋼や合成樹脂を使用することが望ましい。

【0020】上述した栓8は、錘収容室2aの開口端に着脱可能に取り付けられるものであればよく、例えば、栓8の外周に雄ネジ部を形成する一方、これに対応する雌ネジ部を錘収容室2aの開口端に形成し、栓8をこの開口端にねじ込むことによって固定するものでもよい。

【0021】栓8の裏面側には、停止位置調整手段7が設けられている。この停止位置調整手段7は、錘3のスプリング4による付勢される方向への移動量を規制するように、栓8の裏面から錘3側に向かって突出する円柱状ストッパとして構成されている。この第1実施形態においては、錘3がスプリング4に抗して、停止位置規制手段7側に移動して、その先端が錘3に当接した状態において、錘3の突部3bが上述したガイド孔5の下方に位置する。この停止位置調整手段7は、スプリング4を案内する機能をも有する。

【0022】尚、上述したように栓8を錘収容室2aの開口端にねじ込むように構成すれば、そのねじ込み量に応じて、停止位置規制手段7の位置が変化し、これにより、錘3の移動限界位置を調節することができる。

【0023】上述したように錘収容室2a内に収容された錘3の孔3c（図5参照）には、連結部材6の一端が連結されている。この連結部材6は、伸び難くしかも可撓性を有する得る線材からなり、その他端は、図2から最も良く理解されるように、ガイド孔5を通してリップ2の外側に出されている。この線材の他端には、環状部6aが設けられ、この環状部6aに釣り糸FLの先端が連結されている。

【0024】上述したルアー本体1の下面中央部及び後端部には、フック取付け用のアイ1a、1bがそれぞれ設けられており、上記アイ1aに前方のトレブルフックH1がスプリットリングS1を介して取り付けられており、上記アイ1bに後方のトレブルフックH2がスプリットリングS2を介して取り付けられている。

【0025】次に、上述したルアーAの使用方法を説明する。まず、リール（図示せず）を装着したロッド（図示せず）の穂先ガイドから出た釣り糸FLの先端を、上記連結部材6の環状部6aに連結する。キャスト後、リールの巻き上げ操作により、ルアーAをリトリブすると、釣り糸FLの張力により、錘3はスプリング4に抗して停止位置調整手段7側に移動して、これに当接する。このとき、錘3の突部3bがガイド孔5の下方に位置し、この状態では、錘3がルアーAの平面図において、中心軸線CLを通る平面上に位置し、その結果、ルアーAの重心もこの平面上に位置する。従って、ルアーAは、従来のクランクベイトと同様に、左右に実質的に同一の揺れ量をもって、ウォブリングアクションを繰り返しながら潜行する。

【0026】ここで、ルアーAの潜行中、リップ2は水の大きな抵抗を受けているため、リールの巻き上げ操作を停止して、釣り糸FLの張力を小さくすると、錘3がスプリング4によって、停止位置調整手段7から離れる方向に移動する。これにより、錘3は、ルアーAの平面図において、中心軸線CLを通る平面を基準として、一方の側、即ち、図3において上方側に移動し、その結果、ルアーAの重心も同一方向に移動する。従って、ルアー

10

20

30

40

50

Aは水中において横に倒れ、恰も傷ついていたうち回る魚のようなアクションをもたらすことができ、換言すれば、対象魚の活性を高め、釣果を向上することができる。

【0027】上述した実施形態においては、錘3の孔3cには連結部材6の一端が連結されているものとして説明したが、このような連結部材6を使用することなく、釣り糸FLの先端を錘3の孔3cに直接的に連結してもよい。

【0028】次に、本発明の第2実施形態に係るルアーを、図6及び図7を参照して以下に説明する。このルアーBも、上述したルアーAと同様にクランクベイトとして構成されている。ルアーBは、リップ12が異なる形状の錘収容室12aを有しており、その両端部が栓8及び錘位置調整体19によってそれぞれ閉塞されることを除き、上述した第1実施形態に係るルアーAと同一である。従って、同一の構成要素に同一の符号を付し、その説明を省略する。

【0029】リップ12に形成された錘収容室12aは、第1実施形態における同様に、その軸線がルアー本体の中心軸線に対して所定の角度で交差するように、リップ12の左右方向に伸びているが、この錘収容室12aの両端は、リップ12の両側面にそれぞれ開口している。即ち、錘収容室12aはリップ12を水平方向において貫通している。

【0030】図6から明らかなように、錘収容室12aは、これと同一方向に伸びる長孔12bを介して、リップ12の上面側の外部に連通している。この長孔12bの中央の位置には、ガイド孔5が配置されている。

【0031】錘収容室12aの一端には、第1実施形態における同様に、栓8が取付けられ、この栓8には、停止位置規制手段7が設けられているが、錘収容室12aの他端には、錘位置調整体19が取り付けられている。即ち、錘位置調整体19の外周に雄ネジ部を形成する一方、これに対応する雌ネジ部を錘収容室12aの他端に形成し、錘位置調整体19を錘収容室12aの他端にねじ込んでいる。錘位置調整体19のねじ込み量に応じて、錘3の移動限界位置が調整される。

【0032】ルアーBは、上述したルアーAと同一の方法で使用され、同一の効果がもたらされる。但し、ルアーBにおいては、錘位置調整体19のねじ込み量に応じて、錘3の移動限界位置が調整可能であるため、ルアーBの左右方向における重心のずれを調整して、リトリブを停止したときのルアーBの傾斜角度を変化させることができる。又、錘3の突部3bは、長孔12bに沿って移動し、この長孔12bを通して、釣り糸や連結部材6を錘3の孔3cに連結することができる。従って、このような連結作業や連結解除作業が容易に行える。

【0033】次に、本発明の第3実施形態に係るルアーを、図8乃至図10を参照して以下に説明する。この

ルアーCは、バイブレーションプラグとして構成されたもので、ルアー本体21と、一対のトレブルフックH1、H2とから構成されている。

【0034】ルアー本体21は、上述したルアーAにおける同様に、木材、合成樹脂等から成形されたもので、その全体に亘って、小魚を模倣した模様や、様々な色彩パターンを施すことによって、小魚等の餌に擬態させている。但し、このルアー本体21は、ルアーAと異なり、リップを有していない。このルアー本体21はその上面から上方に突出した背鰭部21cを有している。

【0035】ルアー本体21の内部下方には、ルアーCの重心を調整するための錘30a、30bが配置されている。勿論、この錘30a、30bは、ルアーCの飛行姿勢を安定させて、飛行距離を長くするために、ルアー本体21内を移動可能にしてもよく、また、この錘によって、集魚効果を有する音、所謂、ラトルサウンドを発生させることもできる。

【0036】ルアー本体21の前方部分には、錘収容室22aが形成されている。ルアーCの部分平面図である図10から明らかなように、錘収容室22aは、その軸線Lがルアー本体21の中心軸線CLに対して所定の角度 θ で交差するように、ルアー本体21の左右方向に伸びている。この所定の角度 θ は、約5度から約60度の範囲内であることが望ましい。錘収容室22aの両端はルアー本体21の両側面にそれぞれ開口している。

【0037】錘収容室22aには、錘3が移動可能に配置されている。この錘3の構造及びこれを形成するための使用材料は、第1実施形態に係るルアーAにおけるこれらと同一であるため、その説明を省略する。

【0038】ルアー本体21の前方且つ上方の部分には、連通孔21dが形成されている。この連通孔21dは、上述した錘収容室22aの中央且つ上方の部分とルアー本体21の前方且つ上方の表面とを相互に連通している。連通孔21dの下方部分には第1ガイド孔5aが取り付けられ、その上端部分には第2ガイド孔5bが取り付けられている。

【0039】第3実施形態に係るルアーCは、付勢手段としてのスプリング4、停止位置調整手段7及び栓8を有しているが、これらは、第1実施形態に係るルアーAのそれらと同一である。従って、その説明を省略する。更に、このルアーCは、錘位置調整体19を有しているが、これは、第2実施形態に係るルアーBのそれと同一である。従って、その説明も省略する。

【0040】第1実施形態に係るルアーAにおける同様に、錘3には連結部材6の一端が連結されているが、この連結部材の他端は、第1ガイド孔5a及び第2ガイド孔5bを通してルアー本体22の外側に出されている。

【0041】上述したルアー本体21の下面中央部及び後端部には、フック取付け用のアイ21a、21bがそ

れぞれ設けられており、上記アイ21aに前方のトレブルフックH1がスプリットリングS1を介して取り付けられており、上記アイ21bに後方のトレブルフックH2がスプリットリングS2を介して取り付けられている。

【0042】パイブレーションプラグとして構成されたルアーCは、クランクベイトとして構成されたルアーAと、遊泳姿勢が基本的に異なるが、このルアーCもルアーAと同一の方法で使用され、同一の効果がもたらされる。

【0043】尚、第1乃至第3実施形態において、付勢手段としてのスプリング4の材質、線径、巻きピッチ、外形等を変化させれば、ルアーの大きさ、重量、特性等に応じて、錘3を移動させるために必要な張力を変化させることができる。

【0044】

【発明の効果】請求項1に記載した本発明によれば、釣り糸を介してルアーをリトリブすると、錘が錘収容室内においてガイド孔付近まで移動するため、従来のルアーと同様の遊泳操作が可能になり、一方、ルアーのリトリブを停止すると、錘が付勢手段によって錘収容室の一方の側に移動し、ルアーの重心が左右の一方に偏るため、ルアー本体の外観と相俟って、恰も傷ついた魚がのたうち回るようなアクションをもたらすことができ、対象魚の捕食性を刺激して、釣果の向上を図ることができる。

【0045】請求項1のルアーにおいて、請求項2に記載した停止位置調整手段を設ければ、ルアーのリトリブを停止した状態における錘の停止位置を調整でき、ルアーの重心の左右方向への移動量、即ち、ルアーの横倒

れの度合いを任意に調節でき、ルアーののたうち動作を大きく変化させ、更なる釣果の向上を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施形態に係るルアーの一部を断面にした側面図

【図2】図1のルアーにおけるリップの拡大縦断面図

【図3】図1のルアーの平面図

【図4】図1のルアーのリップの一部を断面にした拡大平面図

【図5】図1のルアーにおける錘の斜視図

【図6】本発明の第2実施形態に係るルアーにおけるリップの拡大平面図

【図7】図6のVII-VII線断面図

【図8】本発明の第3実施形態に係るルアーの平面図

【図9】図8のルアーの側面図

【図10】図8の部分拡大図

【符号の説明】

A 本発明の第1実施形態に係るルアー

B 本発明の第2実施形態に係るルアー

C 本発明の第3実施形態に係るルアー

D 従来のルアー

1、21 ルアー本体

2a、12a、22a 錘収容室

3 錘

4 付勢手段

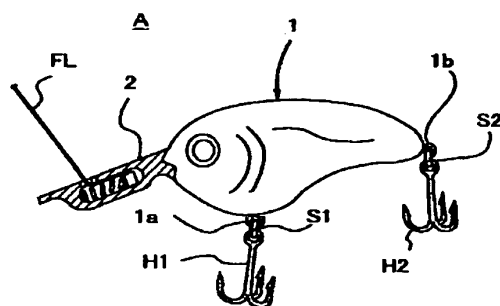
5、5a、5b ガイド孔

6 連結部材

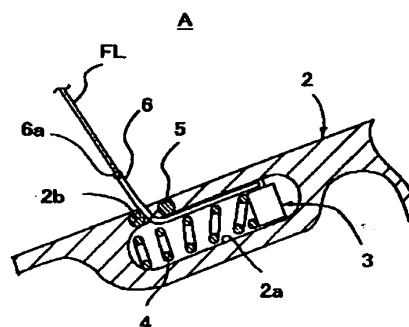
7 停止位置調整手段

FL 釣り糸

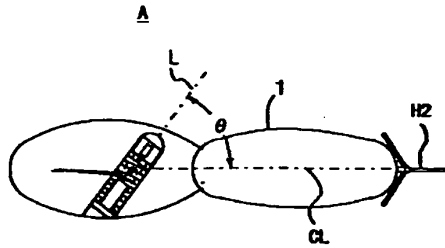
【図1】



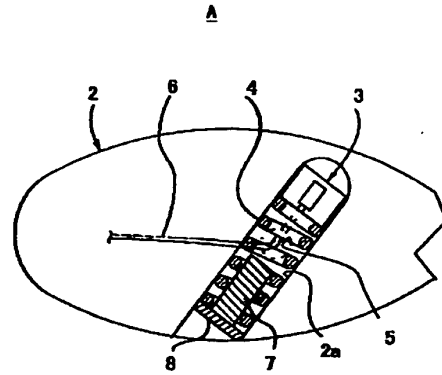
【図2】



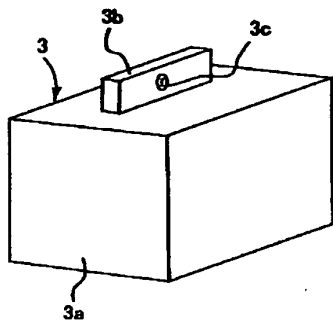
【図3】



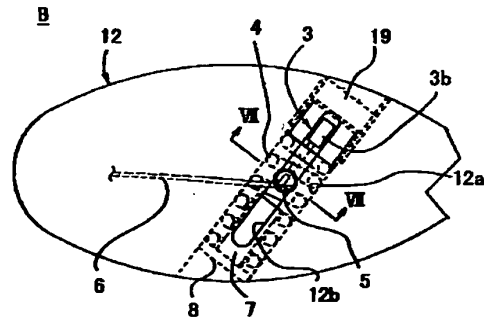
【図4】



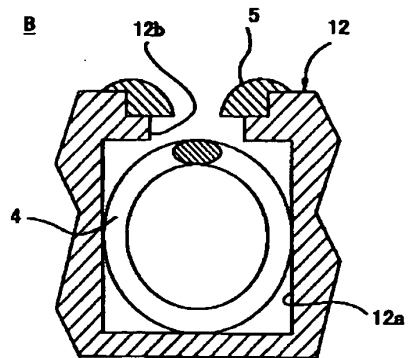
【図5】



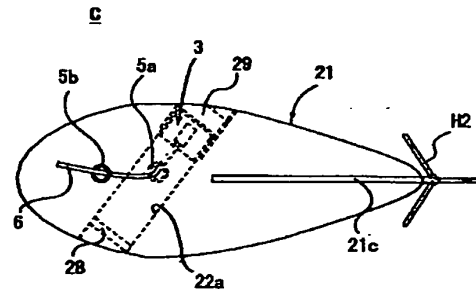
【図6】



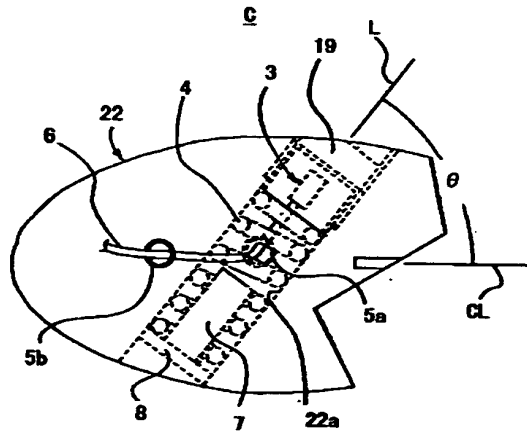
【図7】



【図8】



【図10】



DERWENT-ACC-NO: 2001-118110

DERWENT-WEEK: 200113

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Fishing lure has guiding hole which leads
weight storage chamber to the external of lure body, and
coupler which is coupled with weight and to which fishing
line is connected

PATENT-ASSIGNEE: RYOBI KK[RYOB]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0153687 (June 1, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2000342118 A	December 12, 2000	N/A
007 A01K 085/16		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2000342118A	N/A	1999JP-0153687
June 1, 1999		

INT-CL (IPC): A01K085/00, A01K085/16

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000342118A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A guiding hole (5) is formed to lead the weight storage chamber (2a), in which a weight (3) is movably arranged, to the external of the lure body. A coupler (6), to which the fishing line is connected, is coupled with the weight through the guiding hole.

DETAILED DESCRIPTION - The weight storage chamber intersects with the central axial line of the lure body at a predetermined angle. A spring (4) energizes

the weight to one side of the weight storage chamber.

USE - None given.

ADVANTAGE - Exhibits action of fish that writhes since the center of gravity of lure body moves to right and left according to the tensile force of fishing line, thus improving fishing.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows an expanded plan view of the lip of the lure in partial cross section.

Weight storage chamber 2a

Weight 3

Spring 4

Guiding hole 5

Coupler 6

CHOSEN-DRAWING: Dwg.4/10

TITLE-TERMS: FISH LURE GUIDE HOLE LEAD WEIGHT STORAGE CHAMBER
EXTERNAL LURE

BODY COUPLE COUPLE WEIGHT FISH LINE CONNECT

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2001-087571